がん社会を診る

中川　恵一

糖尿病によるがんの増加 警戒

肥満や糖尿病はがんのリスクを高めます。2017年末にも「全世界のがんの約6％は糖尿病と肥満が原因」とする研究結果を海外の研究チームが発表しました。とくに関連が深いがんでは比率は高く、男性の肝臓がんでは23・3％、子宮体がんでは38・4％が肥満や糖尿病に起因すると推計しています。さらにこの比率は35年にはそれぞれ34・3％、47・9％にまで上昇すると予測しています。

日本人を対象とした調査研究でも肥満により、大腸がん、肝臓がん、乳がん、子宮体がんなどのリスクが増えることが知られています。糖尿病はさらに大きな発がん要因で、膵臓（すいぞう）がんと肝臓がんを2倍に、大腸がんを1・4倍にし、がん全体でも1・2倍に増加させることが分かっています。

全世界の調査では、がんの発症に対する肥満の影響は糖尿病の約2倍という結果でした。しかし、日本を含むアジア太平洋地域の解析では、男女とも糖尿病の影響が肥満の影響を上回っています。

欧米のような極端な肥満が少ないわが国では、とくに男性の場合、肥満よりやせすぎの人でがんが多いという調査結果も出ています。日本人の場合には、肥満よりも糖尿病によるがんの増加を警戒すべきだといえるでしょう。

国内の糖尿病の有病者と予備軍は、16年調査の推計でいずれも約1000万人と膨大です。しかし、ほとんどが遺伝的に糖尿病になりやすい人が肥満や運動不足、ストレスなどをきっかけに発病する「2型糖尿病」です。このタイプは血糖値を下げるインスリンが分泌されなくなったり、その効果が出にくくなったりする「インスリン抵抗性」が原因です。

インスリンには、がん細胞の増殖を促す作用があるため、インスリン抵抗性によって「高インスリン血症」が進むとがんのリスクが高くなる可能性があります。その点では、糖尿病の方は、高インスリン血症の有無を確認しておくとよいと思います。

糖尿病の人は「がん予備軍」といえますが、そのことがあまり知られていないことが問題です。糖尿病が疑われる人の約4割は治療を受けたことがないといわれています。もっと自分自身の身体に関心を持って頂きたいと思います。

（東京大学病院准教授）

イラスト・中村　久美